



変わる時代の確かな視点

## News Release

### 2020 年度特別調査 「第3回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、新型コロナウイルスの感染拡大によって暮らしが激変する中で、全国の 20～69 歳の男女 2,069 名に対して、今年の年末年始休暇の過ごし方や GoTo 利用意向、新型コロナウイルス接触確認アプリの利用状況、そして、コロナ禍における行動変容や生活不安について調査致しました。

足元では2度目の緊急事態宣言が発出される地域が広がる中で、12 月下旬の調査時点では、全体としては店舗での買い物や外食、公共交通機関の利用控えが続くものの、コロナ禍で全く利用していなかった層で利用再開の動きが見られます。また、オンライン会議は、ある程度定着化しつつありますが、在宅勤務から入社への揺り戻しも見られます。一方、ネットショッピングやキャッシュレス決済、自家用車・自転車などの利用は引き続き増えています。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後の変化を追跡するため継続して調査を実施する予定です。

#### <調査結果のポイント>

- ✓ 今年の年末年始休暇の予定はステイホームが約6割だが、若者では帰省や旅行、外食にも比較的積極的。
- ✓ GoTo トラベル・イートの約半数はリピーター、第三波到来で過半数に利用意向なし
- ✓ 新型コロナ接触確認アプリの利用積極層は 33.3%へ低下、課題は利用者の少なさ・陽性者の確実な登録
- ✓ ネットショッピングやキャッシュレス決済の利用は9月より一層増加、リアル店舗はスーパーとデパートで温度差
- ✓ 車や自転車などのセルフ手段の利用は一層増加、公共交通機関の利用者数は増えても利用控えが続く
- ✓ 食事のテイクアウトやデリバリーなどの中食利用は6月より増えているが、9月以降で鈍化
- ✓ オンライン会議はやや増加の一方、出社が増え、在宅勤務はやや減少
- ✓ 感染による健康状態や人間関係悪化、適切な治療が受けられないことへの不安が増している
- ✓ 感染拡大収束や経済回復の見通しは否定的だが、ワクチンや特効薬の開発への見通しは明るくなっている
- ✓ 感染リスクから出産をためらい、少子化がさらに進行することについて約4割がそう思っており、6月より上昇

調査結果の概要は[こちら](#)から

#### この件に関するお問い合わせ

ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上  
[pr\\_corona@nii-research.co.jp](mailto:pr_corona@nii-research.co.jp)

Tel.03-3512-1800

102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | [www.nii-research.co.jp](http://www.nii-research.co.jp)



RESEARCH